

神居中学校学校だより



Vol.4 令和8年7月23日発行



■学校教育目標■

「深く 思考しよう」
「広く 思いやろう」
「たくましく生きよう」

■校訓■

「ねばり強く たくましく」

■令和8年度 学校像■

「底力のある学校」

学校HP <http://www.asahikawa-hkd.ed.jp/kamui-jhs/>

■夏季休業中期間中の連絡について

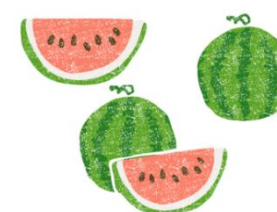
平日に連絡が必要な場合には、電話（６１－７２６１）でご連絡ください。また、夜間や休日等に緊急の連絡が必要な場合には、

kinkyu@kamui.jhs.asahikawa-hkd.ed.jp

にご連絡ください。８／１０（月）～１４（金）は学校閉庁日となっています。閉庁期間中の緊急連絡先は、上記メールアドレス、または、旭川市教育委員会（２５－９１１６）となっています。なお、この期間は部活動についても休みとなりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

■SNSトラブルやいじめを防ぐために

SNSがきっかけのトラブルやいじめが全国的にも問題となっています。神居中学校では、教育委員会から提供される資料等を使って、定期的にSNSトラブルやいじめに関する指導・啓発を行っています。



１学期、本校では１９件のいじめを認知しました。自分はふざけ半分でも相手が嫌な思いをしたら、その時点でいじめです。相当の期間（少なくとも３ヶ月）そのいじめ行為が止んでおり、被害者が心身の苦痛を感じていないと認められれば、いじめの解消となります。昨年度同様、いじめの解消率１００％を目指しています。ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

２学期もスクールカウンセラーが来校しますので、相談希望の方は学校へご連絡ください。

★８月の行事予定★

1(土)・2(日) 北海道吹奏楽コンクール 旭川地区予選	25(火) 2学期始業式 全委員会 B日課
7(金)・8(土) ダンロップ杯中学学年別団体 対抗戦ソフトテニス大会	26(水) 職員会議 B日課 部活動中止
8(土)・9(日) 高木スポーツ旗争奪中学校 野球新人戦大会	27(木) 全校集会 B日課 生徒理解研修 部活動中止
10(月)～14(金) 学校閉庁日	28(金) 私立高校説明会(5・6時間目)
11(火) 山の日	29(土)・30(日) ミカサ杯中学校バレーボール大会
17(月) 給食費等引き落とし日	29(土) スポーツハウス杯中学校 ソフトテニス大会
22(土)・23(日) 高木スポーツ旗争奪中学校 野球新人戦大会	31(月) 教育実習Ⅰ(～9/26) 着任式 校内安全点検日

■1学期の振り返りと夏季休業に向けて

校長 白井 洋 志



開校８０周年となる令和８年度の教育がスタートしてから４か月が過ぎようとしています。入学式、修学旅行、体育大会といった行事を成功裏に終え、生徒たちの成長が様々な場面において垣間見えるなど大きな成果を上げることができました。開校８０周年の記念として行事用 TENT をご寄贈いただきました P T A 会長の浅野様並びに同窓会会長の美浪様をはじめ、保護者や地域の皆様のご理解とご支援に深く感謝申し上げます。

この数か月を振り返りますと、生徒たちの地域に対する貢献が例年以上に輝いていたのではと感じています。４月下旬には、パソコン部の生徒が学校周辺の町内会の資源回収に準備段階から積極的に参加したり、５月中旬には、神居４条第１公園付近の町内会による廃品回収をその場に居合わせた生徒が進んで手伝ったりし、各所からお褒めとお礼の言葉をいただきました。また、６月初旬には転倒して動けなくなった高齢者の方に生徒が優しく声をかけ、状況を的確に判断して救急搬送を要請するということもありました。消防署からお礼の電話があり、この件について知ることができました。校外で見られる生徒たちのこのような活躍を大変微笑ましく、誇らしく感じているのは私だけではありません。今後も続々とよい報せが届くことを願っています。

さて、明日から３２日間の夏季休業に入ります。生徒一人一人がそれぞれご家庭で貴重な時間を過ごし、学びを深めたり広げたりすることとなります。休業明けに一段と成長した生徒たちに会えることを楽しみにしています。よい夏休みをお過ごしください。



神居中 PRIDE 特別コラム

「サッカーワールドカップでの日本人サポーターが見せたふるまい」



６月１５日（月）早朝にサッカーワールドカップ日本 VS オランダ戦がテレビで放映されました。その後、テレビや新聞、SNS等で日本チームの躍進について大きく報道されました。

同時に、近年注目を浴びていることとして、こういった世界的な大会における日本人サポーターやファンのふるまいが取り上げられました。ある外国人記者の記事を引用します。「彼ら（日本人サポーター）は、試合が終わると相手チームを挑発したり、歓喜してピッチになだれ込んだりすることは決してしない。おもむろにポケットからゴミ袋を取り出し、周辺のゴミ拾いを始める。それが一部の人ではなく、全ての人がそうする。これが日本の文化なのだ。」この記事から感じられるように、世界の人々はそのふるまいに驚嘆し、敬意を表しています。一方で、国内では「習慣的にゴミを拾っている人いる？」と“見せる善行”に批判的な方々もいるようです。

ここで、本校の生徒の様子を振り返ってみたいと思います。修学旅行では、３年生がバスから降車するとき、座席や床にゴミが落ちている様子が見受けられません。また、宿泊したホテルを後にするときは、使用した部屋の整理整頓がなされ、ゴミが散らっていることはありません。札幌コンサートでは、１年生が座っていた大ホールの座席周辺を係で確認したところ、ゴミは全くと言っていいほど落ちていません。４月の校内外清掃においては、校門から西側玄関にかけて積極的にゴミを拾い歩く２年生の姿が印象に残っています。

ご家庭での教育を土台として、学校や地域等で積み上げてきた経験により、本校の生徒は、このような場面において当たり前のように身の回りのゴミを片付けることができます。日本人サポーターが見せたふるまいには、こうした背景もあるのではと思う今日この頃です。